

# Structure Kansai № 4 '83・6

## 構造家懇談会関西支部総会が開催される

第2回構造家懇談会関西支部総会が、開催されました。

### ●総会

日 時 昭和58年4月16日（土）  
16:30～17:30  
場 所 建設交流館 603号  
出席者 正会員42名  
司 会 馬瀬芳知氏  
議 長 山田裕治氏  
書 記 奥村寿三雄氏  
議 事 昭和56、57年度事業および決



### 揺籃期をこえて

#### 久徳 敏治

構造家懇談会も3年目をむかえ、全国で約600名、関西支部で今日現在100名を越えるまでに成長いたしておりますが、今だ揺籃期とうけとめています。

しかし、世の趨勢としては、懇談会の意義や職制の理解が、建設省、建築センターあるいは学会と広く浸透し、一般社会の方々にも少しづつ認知されてきてい

算報告、規約一部改定、役員選出、昭和58年度活動方針および予算案承認。役員は理事全員が再選され、支部長に久徳氏、副支部長に青柳、能勢両氏、会計監査に小泉氏が選出されました。規約の改定は会則の改定によるものと役員の任務と選出方法を分離するものです。途中来阪された永松新事務局長の紹介ならびに挨拶があり最後に新支部長より昭和58年度の運営組織、活動方針が発表され総会を終えました。

### ●懇親会

総会終了後同館702号室にて谷尾俊弘氏の司会により懇親会が開かれました。学術会員の日置大阪市立大学教授、竹内大阪工業大学教授および旭化成建材、久保田鉄工、高田機工、東洋基礎工業、日宏の賛助会員各社が出席、40名の出席正会員とともに有意義な時を過ごしました。



るもの事実かと思います。この反面、初期の期待が大きいゆえに、情熱のあせやおい、むつかしい時期をむかえています。

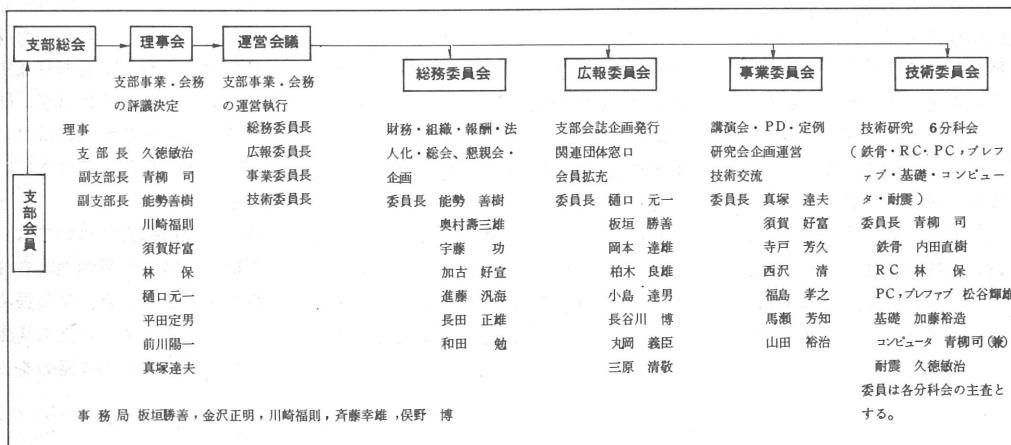
この期にあたり、私達の自立あるいは連帯と自治のもとに、私達のアイデンティティという身分証明書として懇談会をうけとめる決意が求められています。

これをうけて、支部理事会において、本年度の活動方針の大要が討議され、組織として4委員会にと発展的に改組いた

しました。特に、技術委員会に、6つの分科会を設け、重要で緊急なテーマを取りあげ、地道な活動の行なえるように企画いたしておりますが、できるだけ多くの会員の方々の参加を期待しています。

全国的に見ると、関西支部の活躍がもっとも豊かな内容であるとの評価をうけております。今後とも、支部活動を会員個人のための糧として発酵させていくよう、積極的な御協力をお願いいたします。

## 支部組織が改革される



## 今後の支部活動および運営について

### ●総務委員会の活動

#### 能勢善樹

① 財務に関する事項 本年度は前年より、若干少い予算で運営されなければならない事になります。工夫次第で、前年並みの活動が出来るのではないかと考えます。唯、予算の上で活動が縛られることのないよう、支部財政の安定化のために独自の方策も研究して行きたいと思います。

② 組織に関する事項 事務局の負担を減らすような、運営の合理化を提案して行きたいと考えています。

③ 報酬に関する事項 構造設計報酬についてのアンケート調査を近く行いますので、ご協力の程をお願いします。

本部で苦心の末、作ったもので、発表の方法等、取りあつかいは慎重に考えることになっています。報酬と表裏関係の業務内容の合理化についても、研究を始める意向をもっています。

④ 法人化に関する事項 和歌山県奈良県、滋賀県在住の会員の獲得について、会員諸兄の情報、出来れば紹介をお願いします。

⑤ 総会・懇親会に関する事項 当委員会は会の運営の企画立案をする段階を分掌し、会の運営自体はなるべく会員各位に参加していただく形をとります。

### ●事業委員会の活動

#### 真塚達夫

事業委員会は本年度も引き続き定例研究会、パネルディスカッションという形式で支部事業の一部を7人の委員と事務局の金沢（定例研究会）俣野（P.D）氏の合議で企画・運営し実施していきます。

定例研究会は技術委員会分科会の成果を会員の皆様にお伝えすることも考えていましたが、その成果の実る来年迄、待っていただすこととして、本年は見学会を中心に実例を通しての研究会を開きたいと考えています。設計監理者、施工者の苦勞も直かにお聞き願えるものと思い、また賛助会員との技術交流も深まれば、更に結構なことだと思います。見学会は大阪以外での開催も考えていますが、良い

技術的テーマおよびトピック的な建物がありましたら委員、事務局にお知らせ下さい。また会員の日常業務の中で具体的な問題の情報交換の一つとして高層住宅の躯体数量の実例を福島委員を中心まとめていくという動きもあり、定例研究会にも発表して頂く予定です。各会員の御協力をお願いします。

P・Dは本年2回予定しており、次代を背負う「若手建築家による構造の見直し」と次代の構造家を育てる「建築教育と構造実務」がテーマ案です。秋にはP.R.C構造の海外事情を中心とした講演会を、会員を講師に開催する予定であります。

### ●技術委員会の活動

#### 青柳 司

関西支部の技術委員会は本部の部会と対応させて、6つの分科会（地盤・基礎、鉄骨、R.C、P.Cプレファブ、コンピュータ、耐震設計）を設置し、いよいよ組織的に活動する運びとなりました。分科会の主査は本部の部会の委員を兼任し、全国的に活動していただきます。また、技術委員会は下記の3項目を分担し、分科会は会員（準会員も含む）が自由に参加できるように運営します。

分科会は主査のほか中心になって分科会を運営する専門委員と自由参加の会員と世話役とから構成し、2ヶ月に1回他の分科会と重ならないように開催することになりました。また参加人数をあらかじめ知る必要がありますので、参加される方は出席する分科会の世話役に電話で連絡して下さい。

昭和58年度のテーマは下記の通りです。  
(地盤・基礎) 「地震力に対する基礎設計指針(案)」の検討をメインテーマとする(鉄骨) 6/15にメインテーマを決定する。鉄建協からの申し入れに対する対応、「溶接工技量検定試験」に関して本部会に関西支部の意見をだす。

(R.C) 7/11にテーマを決定する。  
(P.Cプレファブ) P.R.C造設計マニュアルの検討及び作成をメインテーマに、  
(コンピュータ) 7/26はフリーディスカッションとし、前半はコンピュータに

関連した教育について、後半はテーマなし

本部のワーキンググループとして応力解析プログラムの出力に関するスペックの作成を行っている。

(耐震設計) 6/14 1)ATC-3について 2)新耐震の問題についての討論

8/9 フィリピンの震害報告

以後、設計紹介も行ってゆく

分科会の予定はストラクチャー関西に早めに記述して行きますが、タイミングがありますので、自分の感心のある事は分科会の世話役に連絡して情報をつかんで下さい。複数の分科会に参加できるように運営しています。会員の積極参加を期待しています。

### ●広報委員会の活動

#### 樋口元一

本年度から広報委員会が独立しました。この委員会の活動内容は、支部内および外部に対する広報活動を主体とし、関連諸団体との交流の窓口となり、又会員の拡充を行うこととなっております。以前から第一委員会の中でこれらの活動を行なってきましたが、更に集中して内容を充実して行きたいと考えております。さて支部広報活動の拠点として「Structure Kansai」を発行してきましたが、担当委員のご努力により、作成も軌道にのり、支部の内外からのご寄稿もいただき、頁数は少ない乍らも効果的にその役割を果しているものと思われます。今年度から益々支部活動も盛んになって行きますので、その紹介や会員の声或いは外部からの意見などを含め更に内容を豊富にし、配布部数も多くしてご利用戴けるようにしたいと思っております。

次に関連団体、分野との交流は支部の主要な活動の一つでもありますので、関西の建築諸団体、関係官庁、研究機関、或いは構造関連業種団体などに働きかけ、交流の機会を作って行きたいと考えております。

最後に会員拡充については、地域的に京阪神から離れた関西地区在住の方々にご参加を願うことと、準会員の増員を重点としております。以上の活動につきまして会員の皆様方のご協力をお願いします。

## ●支部の動き

- 2/10 第3回定例研究会－構造物評価の現状と問題点（林 保氏）、大阪地域における地震入力について（久徳敏治氏）、先輩構造家に聞く（平田定男氏）
- 3/30 支部理事会－昭和58年度活動および予算案の承認、規約改定
- 4/5 技術委員会打合せ会
- 4/16 第2回パネルディスカッション構造家にのぞむ－建築計画の立場（山崎泰孝氏・AZインスティテュート）、設備の立場（荒井 清氏・東畑建築事務所）、施工の立場（得田芳宏氏・松村組）、行政の立場（岡田興治氏・大阪府庁）、司会 須賀好富氏於建設交流館603号、参加数55名。
- 4/16 昭和58年度支部総会
- 4/27 コンピュータ分科会
- 5/11 基礎分科会
- 5/11 広報委員会  
Structure Kansai No.4の企画
- 5/12 耐震分科会
- 5/13 PC・プレファブ分科会
- 5/16 鉄骨分科会
- 5/17 技術委員会
- 5/20 事業委員会
- 5/25 運営会議－各委員会の運営組織および活動方針の承認
- 5/26 コンピュータ分科会
- 東京の動き  
5/28 第3回総会が鉄鋼会館にて開催され、一部理事の退任の他は全役員の留任が決定、矢野代表は就任の挨拶の中で発足以来懇談会も成長を遂げて来たが一層基盤を充実するとともに本年は報酬問題に積極的に取組む姿勢を強調、会員諸氏の一層の協力を呼びかけた。審議に入り会則の一部改定、事業計画、予算が承認されました。総会終了後坪井先生他特別会員とともに懇親会が開かれました。

## ●技術委員会分科会にご参加下さい。

本年度より右表の如くテーマ別研究会を開催します。参加は自由です。興味のある方は該当する分科会の世話役に電話をして気軽にご参加下さい。

## 昭和58年日本海中部地震被害調査速報

### 水畠 耕治

編集子よりユートピア的な記事を希望され、別の原稿を書き終えたところで表記の地震が発生し、松尾芭蕉ではないが「そぞろ神の物につきて心をくるわせ、地震のまねきにあひて、取もの手につかず、三里の炙すゑて」5月30日夜から6月2日朝まで秋田・男鹿・能代の各市へ震害調査に出かけたので、全く稿を改め、ユートピアとは正反対の生々しい地獄の話を書くことにした。まだ帰学したばかりで写真もできていない状態であるが2、3気付いた点を思い出すまゝに述べる。

はじめ津波による死者が多かったので、建物関係の報道は少なかったが、筆者は昭和39年新潟地震との類似性を予想して調査に出かけたところ、やはり多くの箇所で地盤の液状化が認められた。そしてこの地盤の液状化は地割れと複合して起こっており、特に民家の被害を大きくしていた。即ち、地割れが建物の真中を走りその線上の床下で噴砂噴水が生じていた。（能代市青葉町）地割れの幅は所によっては30数cmあり、ブロック塀の鉄筋を引張破断され（秋田市新屋元町）立木の幹も生垣の根も真2つに引き裂く（能代市青葉町）強烈なものであった。地割れと液状化は沼（男鹿工業高校）や川の埋立地に多く、従って新興住宅地に被害が多かったが、地割れに当たらなかった所は被害が少なく、地割れの入り方が運命を左右していた。中規模以上の建物では近年PCの支持杭基礎が多くなり、新潟のようなRC建物の大傾斜は少なかったが、小傾斜した杭基礎の建物は存在しこれは詳細に調査すべきである。震動による上部構造の被害としてはタンバッカル付の細棒の筋違を使用した鉄骨2階建の1階柱が大傾斜したものがあり（男鹿市脇本）中途半端な筋違は効果がないことが今回も確認された。

## 夫婦

### 横山 誠一

夫婦のかたちは、さまざまである。亭主閑白の夫婦もあれば、天下の夫婦もある。似たもの夫婦に、しょっちゅう喧嘩ばかりしている夫婦、たがいにあきらめきった夫婦もある。

いろんなタイプの夫婦があるなかで、どのタイプが幸せで、どれが不幸ということもない。亭主閑白で満足している妻、天下でも楽しくやっている亭主もいる。

もともと、夫婦は一心同体といわれても、しょせん、男は女を理解できない、女も男がつかめない。それでも、男と女は結婚し、家庭をつくり、生活を続けてゆく。

男の立場でいえば、外へ出たら7人の敵があり、仕事や付き合いも女房に理解してもらいたい。やはり、夫唱婦隨がよい。でも、女にも言い分がある。男は自分だけ外で勝手なことをしておいて、育事や教育、家計のことも、みんな女房の責任にさせられている。女も外に出たいし、地位も認めてほしいと思っている。

お互いの思いは相いれないことが多い。だからといって、女が外へ出て権利を主張し、ウーマンリブの運動を始めても、幸せにはつながらない。とどのつまり、家庭は男と女の機能分担で成り立つ。

建築をつくることも、これに似ている。計画屋または意匠屋と構造屋の間柄は、夫婦の関係のようなものである。勝手気ままな意匠屋もおれば、頑固な構造屋もある。その個性の組合せはさまざまである。どの組合せが良い建築をつくるともいえない。それぞれの立場を認め、目的と役割がはっきりすれば、分に応じて協同ができるのではないか。

男には女が必要であり、女も男なしでは生きる張合いが無からうに、と思う。違いを認めて、仲良くする努力をするしかない。

分科会名	鉄骨	R C	PC・プレファブ	基礎	コンピュータ	耐震
開催日	偶数月 第3水曜日 17:30~	奇数月 第2月曜日 18:00~	奇数月 第3金曜日 18:00~	毎月第3火曜日(8,12月を除く) 18:00~	奇数月 第4火曜日 17:30~	偶数月 第2火曜日 16:30~
場所	日 建 設 計	安井建築事務所	鴻 池 組	持 ち 邸 り	日 建 設 計	持 ち 邸 り
問合せ先 (世話役)	日建設計構造部 深井 敬三 TEL 203-2361	安井建築事務所 山本 幸昭 TEL 943-1371	鴻池組設計部 大内山 正英 TEL 244-3832	竹中工務店設計部 角田 彰 TEL 252-1201	日建設計構造部 齐藤 幸雄 TEL 203-2361	竹中工務店設計部 瀬川 邦夫 TEL 252-1201

## ●会員の紹介

金沢 正明

■(株)大林組

趣味別に無し



本会は、他に対して、我々構造技術者の職能を護持する団体として発展して欲しいと思います。しかし一方、「建築を創る」と言う事に、所謂建築家とか構造家と言ったものが、対峙して存在するのでしょうか。

板井 亨介

■(株)熊谷組大阪支店



趣味 読書、ゴルフ

建物と人間の身体とはよく似ていますね。ルックスは意匠、骨格は構造体、循環器呼吸器は空調衛生、そして神経は電気という事でしょうか。建築家は建物のお医者さんです。健康体を造るには広く社会的な視野も備えてバランスのとれた診断の出来る専門家にと心掛けています。

宇藤 功

■(株)松村組設計部



趣味 ゴルフ、野球

構造設計を志望する人が減っていると聞く。そんなに魅力のない職種なのであろうか?。日本は世界でも有数の地震国であり、その地震から生命・財産を守るという使命に携わっている事は、非常にやりがいのある職種だと思うがどうでしょう。そういう意味で構造家懇談会が構造家が世間にアピール出来る団体になる事を期待しています。

辻 俊雄

■(株)双星設計



趣味

近頃想うこと、学校ではじめて建築の講義をきいたとき「建築は芸術と科学の総合である」と言われた先生の言葉に、いたく感激したことを覚えている。建築における芸術性と科学性はいづれが兄たり弟たるものとは思っていない。ところ

### ●事務局よりのお知らせおよび入会案内

#### ■現場見学会を開催します。

第4回定例研究会は下記の要領で現場見学会とします。ふるってご参加下さい

日時 昭和58年6月25日(土)

13:00~16:00

場所 大阪城国際文化スポーツセンター

加古 好宣

■(株)榎洋建築事務所

趣味 ゴルフ、スポーツ観戦



この道に入りて15年になります。いろいろ経験を積んで来ましたが、近年の技術の進歩、それに伴う基準の高度化に追いつくのが大変です。より一層の努力をしようと肝に銘じています。

上田 宏二

■(株)高橋上田設計事務所

趣味 音楽、ゴルフ



事務所を設立して4年が経過し、雑務に追われる毎日です。構造設計の手法も複雑になり、余り数字・機械にとらわれて、全体を見失うのではないかと心配されます。構造家懇談会を通じて構造家の技術的価値を社会的に高める組織力に期待します。

須賀 好富

■(株)キンキ構造設計・近畿大学

趣味 ゴルフ・酒



仕事の内容は構造設計・建物診断・構造実験等開発的なことが多い。全般的に設計料等が安く割に合わない。希望する額を要求すると仕事が他に流れる。当懇談会での報酬問題の早期解決を願いたい近畿大学では「構造力学」と「構造計画」を教えている。もう19年にもなるが、まだ教育は新米同然である。

進藤 汎海

■(株)企画設計社

趣味 花卉園芸



言葉が無ければ、物ごとを考えることは出来ない。最近マイコンで遊んでいて、改めてこの言葉というものの本質に触れた思いがした。言葉は記号で成立している、その記号を構成する要素が単に0と1であるとは。

佐久間周治

■(株)佐久間周治構造計画事務所

趣味 ラグビー、音楽、旅行



『Simple is best』どこかの宣伝文句じゃないけれど、あたり前の事じゃあなかったかなあ? 目に見えない応力をなんとか見ようと努力している。建物がいかに複雑な多用途空間を要求されてもそれをいかにSimpleに解析するかが、構造設計である様に思います。

都世子 一成

■(株)久米建築事務所大阪事務所

趣味 水泳、園芸



構造家の業務は 日進月歩の理論や技術を身につけ、地道な作業が要求される。しかも責任は極めて重い。その割に新鮮味にとぼしく 目に見える成果や評価の少ない分野だと思います。

構造家懇談会の誕生、その後の会員の結束、盛り上りに明るい前途を大いに期待しています。

な風潮は悲しいが、この風潮は簡単に是正されないのであろう。構造家は建築家のみならず施主にも、或は一般社会に対しても職能の理解を求める努力を怠ってはなるまい。その努力を実らせるための条件づくりを、いまから始めねばならないであろう。難しい問題ではある。

さい。

#### ◆会員数の現況(5/末現在)

全国 特別会員 28名 学術会員 85名  
正会員 628名 準会員 22名

賛助会員 134社(336口)

関西支部 正会員 110名

準会員 2名

発行 構造家懇談会関西支部事務局  
川崎建築構造研究所 TEL 231-3112